

ポイント



- ① 式典やプレスリリースを通じて、町×大学発ベンチャーによる事業や土地活用への町民意欲を醸成
- ② オープンイノベーション方式によるワークショップで、町内事業者の未利用地への興味・関心を喚起し、事業化可能性の高い土地活用方策を抽出

<令和4年度の取組成果>

- 大学発ベンチャー2社が町との協働に積極的な意向を表明し、継続的な関係を構築。
- 町民を主体とする勉強会や実証実験を実施し、大学発ベンチャー企業との関係づくりを含めた未利用地活用の枠組みを構築。

<今年度（令和5年度）の取組成果>

- 昨年度から継続する大学発ベンチャー企業との連携強化に繋がる実証実験の実施と町内外への周知による未利用地活用の認知度向上
- 未利用地の新たな活用方策として、ブルーベリー栽培事業による産業・観光の創出を町の事業として継続検討していく方針を決定
- 次年度以降の未利用地活用検討にあたり、町内外関係者の連携体制を構築

<今後の方向性>

- 町内からの注目が集まる駅前でSDGs花壇による農産物の育成を行い、担い手の発掘や大学発ベンチャー企業との連携を継続
- 未利用地を活用した、ブルーベリー栽培事業による産業及び観光の創出について、アクションプランに基づき推進

所在地：岩手県大槌町

主な用途：大学発ベンチャー等の生産施設等（事業所、店舗等）

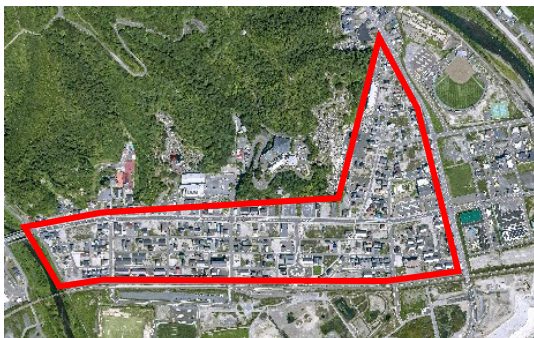
■ 位置図



1. 目的と背景

中心部の未利用地活用にあたり、新たな産業を誘致することで、若年層にとって魅力ある就労や活動の場を創出

- ・ 町の中心部である町方地区において、約5haの未利用地が残る。住宅建設や移住定住施策による活用は頭打ちとなっており、移住定住促進の重要な要素である若年層にとって魅力ある就労や活動の場の創出が急務。
- ・ 昨年度から取り組んでいる農業系のベンチャー企業と町内事業者の連携を強化し、中長期的な事業連携に向け、今年度は実証実験を行う。
- ・ 大槌町で展開可能性のある事業者を発掘し、地域参加型WSを行うことにより、町内事業者との新規事業化の連携可能性を模索する。



地区航空写真(2021.8.6撮影)



対象地区周辺写真(県道大槌小槌線沿道)

2. 取組にあたっての課題

昨年度より、未利用地活用について大学発ベンチャー企業との連携を模索してきたが、以下の課題があり、新規産業の発掘を含めた継続した取組が必要。

- ・ 大学発ベンチャーとの連携による中長期的な投資の誘致につなげるため、**大学発ベンチャーと町民との関係の深化や町内の担い手の発掘が必要**
- ・ 町中心部の未利用地活用に繋がる**大槌町の特性に合った新たな産業の発掘や、継続した産業育成の意識醸成が必要**

3. 今年度の取組項目

昨年度事業から導き出された方向性を踏まえ、以下の取組を実施。

I 大学発ベンチャーと連携した実証実験の展開

- ・ 大学発ベンチャーと連携した実証実験の実施による中長期的な事業連携に向けた関係性強化と事業に対する町内外の認知度向上

II 新たな企業群との連携の方向性の模索

- ・ 未利用地利活用ワークショップを行い、新たな企業群との連携の可能性を模索

III 未利用地利活用に向けた方針検討

- ・ 次年度計画（アクションプラン）の策定

4. 取組経過や主な調整プロセス

6～9月 大学発ベンチャーと連携した実証実験を行い、町民の認知・理解を深めつつ、将来的な大規模事業への足掛かりを構築

- ▶ (株)TOWINGの高機能ソイルを活用した「SDGs花壇」を未利用地に設置。実証実験の実施により(株)TOWINGとの連携を強化し、将来的な大規模事業化に向けた次年度以降の継続検討が決定。
- ▶ 関係者や町民参加の植樹式を実施し、プレスリリースにて発信することで、町内外に広く事業を周知。 ※p1-4 図1 参照



ポイント①

式典やプレスリリースを通じて、町×大学発ベンチャーによる事業や土地活用への町民意欲を醸成

9～12月 未利用地の利活用に関するワークショップを開催、土地活用アイデアや新たな企業群との連携の可能性を模索

- ▶ 事業を営む経営者や地域おこし協力隊等、事業を行う可能性がある町内有志に広く参加を呼びかけ、未利用地への興味・関心を喚起。
- ▶ 大学発ベンチャーを含む広い領域において未利用地で展開可能な事業アイデアを広く収集し、実現可能性の高い未利用地活用アイデアを検討。



ポイント②

オープンバージョン方式によるワークショップで、町内事業者の未利用地への興味・関心を喚起し、事業化可能性の高い土地活用方策を抽出

12～3月 実証実験及びワークショップの検討を基に、次年度以降の計画実行につながるアクションプランを策定

- ▶ ワークショップの結果を踏まえ、未利用地活用の方向性としてブルーベリー栽培事業による産業・観光の創出を事業として継続検討していくことを決定。
- ▶ 次年度以降の事業プロセスについて、3か年計画アクションプランを策定。 ※p1-4 図2 参照



ワークショップの開催

■ 「町方地区区画整理地内の有効な土地利用のあり方検討会（ワークショップ）」開催と今後の実施体制

大槌町産業振興課が主体となり、(株)船井総合研究所の支援のもと実施

区画整理地の管理を行う大槌町産業振興課が主体となり、(株)船井総合研究所の支援のもと、(株)TOWING、大槌町観光協会と連携して実施。

実施主体：

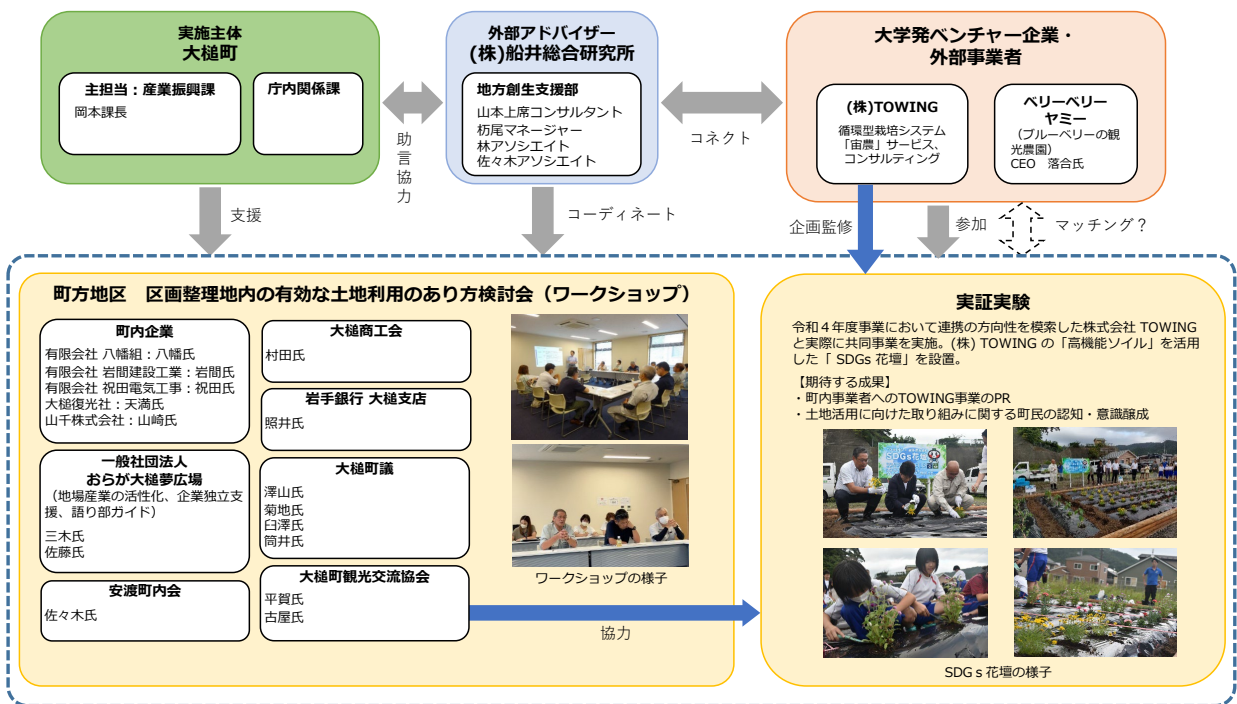
- ・ 大槌町産業振興課（全体とりまとめ）

民間支援：

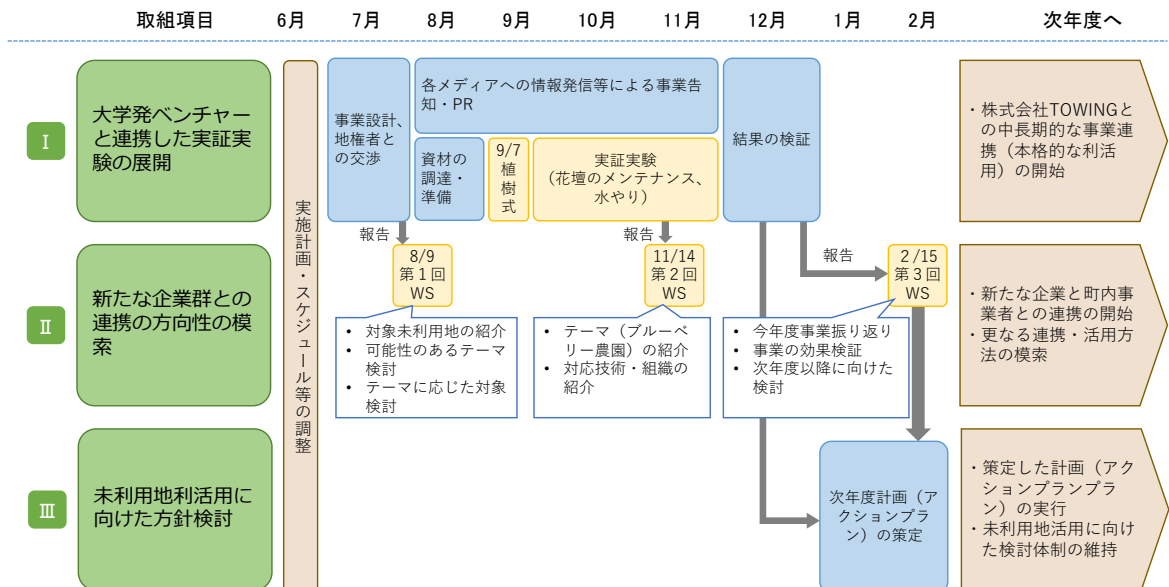
- ・ (株)船井総合研究所（未利用地の特性分析、大学発ベンチャーを含む企業群とのマッチング）

連携主体：

- ・ (株)TOWING（実証実験の監修・資材提供）
- ・ 大槌町観光協会（実証実験の提携）



■ 取組工程



■ 取組成果や重要な検討資料等



図1 SDGs花壇植栽式の様子(左)

Otsuchi Press Release

報道関係各位

令和5年8月30日

岩手県大槌町 × TOWING
復興に向けたSDGs花壇設置！植栽式を開催します！

- 岩手県 大槌町では、東日本大震災からの復興を進めるべく、町方地区画整理地内の駅前に点在する空き地の利活用事業を推進しています。
- 2022年度の事業の中で、名古屋大学発ベンチャーであり宇宙で展開できる農業を模索する株式会社TOWINGとの連携を模索し、2023年度本格的な展開を模索するために試験的事業「SDGs花壇」を実施します。
- SDGs花壇では同社が開発した高機能/バイオ炭(亩炭)を活用し、駅前の未利用地の一部(提供:岩手銀行)において合計50㎡の花壇を整備し、花苗・野菜苗を栽培します。
- 亩炭を活用することにより、微生物とバイオ炭の組み合わせで土づくりを高速で実現し、なおかつ脱炭素、減化学肥料、地域循環型農業への転換を実証する事業としていきます。
- 実証に先立ち、以下日程にて町長、TOWING COO、小学生を交えて植栽式を開催致しますので、ぜひご参加ください。

岩手県大槌町、復興に向けたSDGs花壇の植栽式を開催！高機能ソイルを活用した花壇で町を活性化

2023.09.14 12:00

大槌町役場



岩手県大槌町では、2023年9月7日(木)に株式会社TOWINGと連携した「SDGs花壇」の植栽式を実施しました。
町方では、東日本大震災からの復興を進めるべく、大槌駅前を点在する空き地の利活用事業を推進しています。今回は株式会社TOWINGと連携し、同社が開発した「高機能ソイル」を活用したSDGs花壇を設置しました。植栽式では大槌町長を始めとした関係者の皆様、町長の皆様、小学校の生徒にもご協力いただき盛況となりました。

目新しい情報を見る

プレスリリース画像



植栽式_1



植栽式_2

プレスリリースの記事(右)

3. 令和6年度事業 2つの事業展開の成果と課題

本年度は、SDGs花壇の実証実験及び新たなビジネスシーズの発掘とマッチングを行った。SDGs花壇の展開においては、町方の中心に位置する未利用地での展開を行い機運醸成への貢献が見られたものの、気象条件等により「亩土」の効果に十分に発揮できなかったことが課題として挙げられる。一方、ビジネスシーズの発掘とマッチングにおいては、観光型ブルーベリー農園との親和性が高いことが確認されたことから、次年度は同プランを積極的に展開することが決定された。

重点事業01. SDGs花壇の展開

- 植栽式 (@町方 未利用地 中心部)
 - 日時：2023年9月7日 1400~1500
 - 参加：20名(大槌町関係者+小学生+花いっぱい運動)
 - 内容：株式会社TOWINGの高機能ソイル「亩土」を中心とした花苗及び野菜苗を植栽する式典を企画・開催するとともに、大槌町からの情報発信をプレスリリースを中心に行なった。



- 育成結果
 - 花苗：「亩土」の影響もあり大きな成長が見られた。今後の展開も十分に可能な結果となった。
 - 野菜苗：苗の植栽時期が9月にずれ込んだ関係もあり、「亩土」の本来の効果発揮するには至らなかった。今後は時期をずらすなどして展開を模索する必要がある。



- 育成と移転 (@町方 未利用地 中心部)
 - 日時：2023年12月20日
 - 参加：10名(大槌町観光交流協会を中心に10名)
 - 内容：実証実験としての育成が完了したが、花壇の今後の利活用が検討・決定されたため、より町内からの注目が集まりやすい大槌駅前へ花壇移設を行った。



重点事業02. 新たなビジネスシーズの発掘とマッチング

- 第1回WS (@おしゃっち 会議室)
 - 日時：2023年8月9日 1600~1730
 - 参加：24名(大槌町の新規産業希望者)
 - 内容：第1回WSでは昨年度事業を振り返るとともに、今年度のビジネスシーズとして適切なテーマ選定を協議した。この結果、従来の商工業ではなく、自然を生かした農産物+観光の展開的な要素を重視したビジネスシーズを発掘することが決定した。



- 第2回WS (@おしゃっち 会議室)
 - 日時：2023年11月14日 1600~1730
 - 参加：20名(大槌町の新規産業希望者)
 - 内容：第2回WSでは第1回のWSにおいて決定されたテーマに基づいて発掘されたビジネスシーズとして「ブルーベリー農園(観光型)」を紹介、検討した。具体的には、富山県でブルーベリー農園を0から立ち上げたペーパークマシー 代表の落合様をお招きし、その可能性についてお話を頂き、その後質疑応答を行った。



- 第3回WS (@大槌町役場 会議室)
 - 日時：2024年2月15日 1600~1730
 - 参加：19名(大槌町の新規産業希望者)
 - 内容：第1回、第2回のWSの結果を受けて、事業全体のとりまとめを行うとともに、次年度以降に展開するブルーベリーをシーズとした具体的なアクションプランについて協議を行った。



R06年度アクションプラン

- ステップ1. ブルーベリー-知見獲得
 - 目的：大槌町の適性を踏まえうえでブルーベリー農園展開に必要な知見、ノウハウを獲得する。
 - 期間：R06年度 4月~9月
 - 実行項目：落合様の正式アドバイザーとしての就任打診と複数回招聘富山で展開されるブルーベリー-視察と知見獲得大槌町の未利用地を活かした具体的な展開施策検討
- ステップ2. ブルーベリー-農園展開
 - 目的：大槌町 未利用地でのブルーベリー ミニ農園の展開既存産業である温浴施設との連携の模索
 - 期間：R06年度 10月~3月
 - 実行項目：未利用地の特定と利用許諾ブルーベリー苗の獲得と育成テスト次年度の収穫イベントの準備



		R6年						R7年					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
知見獲得	ブルーベリー-知見獲得 ブルーベリー-農園計画												
農園展開	ブルーベリー-ペーパークマシー視察(1泊2日)												
	農園計画詳細 策定 ブルーベリー-採数 農園計画												
	・株の購入 ・育成の開始 ・次年度展開計画策定 ・マストの場 連携模索												
	・事業振り返り ・次年度準備 ・採算計画策定												

図2 今年度事業の結果概要とアクションプラン

5. 今年度の取組成果

成果1 昨年度から継続する大学発ベンチャー企業との連携強化に繋がる実証実験の実施と町内外への周知による未利用地活用の認知度向上

- ▶ 花苗・野菜苗を植栽する式典を開催するとともに、プレスリリースを中心とした情報発信により町内外での事業認知度の向上が見られた。
- ▶ 実証実験を通じて、町と(株)TOWING、民間団体等の未利用地における取組連携の機会が創出され、SDGs花壇による小規模事業の継続が決定され、より町内からの注目が集まりやすい大槌駅前への移設がなされた。

成果2 未利用地の新たな活用方策として、ブルーベリー栽培事業による産業・観光の創出を町の事業として継続検討していく方針を決定

- ▶ ワークショップにおいて町内参加者の強い関心があった「ブルーベリー栽培事業」を、未利用地利活用の新たな方向性として継続検討していくことを町で決定。

成果3 次年度以降の未利用地活用検討にあたり、町内外関係者の連携体制を構築

- ▶ 今後、町と町内事業者でブルーベリー栽培事業を検討していくにあたり、先見的な知見や経営ノウハウを持ったブルーベリー農園経営者との関係を確立。
- ▶ 実証実験を通じた観光協会や町内組織と町の連携体制を構築。

6. 今後の方向性

町内からの注目が集まる駅前でSDGs花壇による農産物の育成を行い、担い手の発掘や大学発ベンチャー企業との連携を継続

未利用地を活用した、ブルーベリー栽培事業による産業及び観光の創出について、アクションプランに基づき推進

- ・ 次年度は、ブルーベリー栽培事業の発足を見通した知見獲得及び情報収集と、本格展開可否を確認するための公共パイロットケース農園（実証実験）を開始

中長期スケジュール・フロー図等

年度	ゴール	主力事業
令和6年度	【1】ブルーベリー栽培事業発足のための知見獲得 【2】パイロットケースの開始	1. 【知見獲得】ブルーベリー栽培事業の発足を見通した知見獲得及び情報収集 ・ブルーベリー農園を運営するベリーベリーサミー落合様によるワークショップを年4回実施 ・ベリーベリーサミーの現地視察の実施 2. 【実証実験の準備・展開】本格展開可否を確認するためのパイロットケース農園の開始 ・使用可能な未利用地の選定及びブルーベリー苗の準備 ・パイロットケース農園を開始し、育成状況を確認 →ブルーベリー事業が展開可能かどうかを判断し、事業成功のポイントを取りまとめる
令和7年度	【1】公共パイロットケースでの観光誘客把握 【2】民間事業者参入のための支援制度作り	1. 【実証実験継続】ブルーベリー栽培事業の継続と町民を対象とした事業実施 ・ブルーベリー農園でのブルーベリー苗育成の継続 ・ブルーベリー農園での収穫体験のイベントの実施と反応の確認 2. 【民間参入準備】民間企業が参入するための支援制度の準備 ・民間企業が収益獲得可能な規模・経営内容の計画策定 ・町内民間企業が参入するための支援制度の準備 →ブルーベリー事業への民間参入の準備を整える。
令和8年度	【1】公共パイロットケース完了 【2】民間本格参入の実施	1. 【実証実験完了】ブルーベリー栽培事業の完了 ・ブルーベリー農園でのブルーベリー苗育成の2回目イベントの実施 ・ブルーベリー農園での改良ポイントの抽出と公共パイロットケースの完了 2. 【民間参入促進】 ・支援制度を活用した民間企業の参入促進 ・民間企業の実施農園と連携した観光施策の実施 →ブルーベリー事業への民間参入の実現

7. 取組主体・関係者の声

これまでの状況や今回の取り組みにおける工夫や苦労など

- ・ ワークショップ実施にあたり、大槌町で展開可能性のある事業者選定に苦労した。

ハンズオン支援事業で今回取り組んだ感想など

- ・ 本事業につきまして、ご助力いただきまして感謝いたします。ワークショップをはじめとして、事業全体を見通したご意見アドバイスをいただいたおかげで、来年度事業の兆しが見え始めたところです。



大槌町 産業振興課
岡本克美 課長